

有効活用すれば、二酸化炭素の削減に貢献するだけでなく森林環境を豊かにすることにも繋がります。

当町でも一般家庭や事業所においてエネルギー消費量が増加していることから、薪、ペレットストーブの普及は一つの対策として認識しているところです。化石燃料の消費削減のほか、人道の町での新たなライフスタイルの提案として、田舎暮らしにაცოგარემორბრეინ策の一つとしても貴重な観点であると考えます。

ただし、薪ストーブは煙や臭いに対する苦情等の事例もあり、そうした対応策も必要になってくると思います。県内では、4つの市町が薪やペレットストーブの補助事業を実施しておりありますが、この補助については自市町内に薪やペレット、ストーブ工場があることから、地元内での利活用や地場産業振興の意図合いも大きいと考えます。

今後、先進地の取り組みを研究し、視察等も行いながら補助事業等木質バイオマスに関する施策について検討していききたいと考えております。

再生可能エネルギーを多く売っている事業者からの電力購入を

問 薪ストーブの補助については、太陽光発電に補助をしていることから有効ではな

いかと考える。関連した質問として、電気は昨年4月から一般家庭でも新電力として大手の電力会社以外からも買えるようになり、高圧部分については以前から新電力の購入ができると聞いている。八百津町においても高圧部分について庁舎で使う電力の供給を受けていると聞いているが、再生可能エネルギー自給自足100%を目指す八百津町にとっては、買い取る電力も再生可能エネルギーの割合の高い事業者から買い取っていた方がいい。低圧部分についても昨年の4月から自由化になったので、研究して再生可能エネルギーを多く売っている事業者からの購入を検討していただきたい。町の考えを伺う。

答 (青山総務課長)

八百津町として電力小売自由化を受け、平成26年7月から環境面や安全面に配慮した上で、電気代を抑える方法として中部電力(株)から特定規模電気事業者に供給を切り替えました。これについては、高圧電力契約施設ということで町の14施設に電力の供給を受けています。尚、昨年4月から低圧受電施設についても電力小売自由化になったというところで検討して行きたいと考えていますが、現在受けている新電力のエネットという会社は、主に二酸化炭素排出量の少ない天然ガスを利用した電力

が中心であり、再生可能エネルギーということでは太陽光、水力、風力、バイオマスなどを使って再生可能エネルギーを活用し生成したエネルギーを届けており、天然ガスと再生可能エネルギーを併せたエネット全体の4分の3がクリーンなエネルギーというものになっています。全国に384もの電気事業者が増えており、再生可能エネルギーの利用を加速し、低圧電力についても検討したいと考えています。

**清流パワーエナジーなど
しっかりと監視を**

問

公共の福祉のために、八百津町にとって不利益のないようにしていただきたい。清流パワーエナジーの実態が見えないので、防災センター西側に設置されたものは実験のためと思っている。今後どう検証しながら産学官で連携するのか、しっかりと監視をして町民に不利益のないようにしていただきたい。このことについて町の考えを伺いたい。

答 (瀬瀬参事)

ご指摘のとおり町民の方々に不利益が及ばないように、事業者と町がマスタープランを立てています。目標に向かってしっかりとした事業計画を立てて作って行くようにしています。商業ベースだけではなく、町としても有意義なものになるのか

しっかりと判断して参りたいと思っております。

Q2 妊娠前の予防接種について

妊娠前の予防接種に対する補助について

問

平成24年から平成25年にかけて首都圏を中心に全国的に風疹が大流行し、その中で、妊娠中の女性が感染したことから、胎児が耳や目、心臓に障害を及ぼす先天性風疹症候群にかかった例が多く報告された。風疹はワクチン接種によって防ぐことができる病気であり、妊婦が免疫を備えていれば生まれてくる子どもが障害を持って生まれることはなく、その免疫は子どもの時の予防接種で形成されることはよく知られている。医療機関では妊娠を望む夫婦に対し、風疹を含む4つの感染症の免疫検査を推奨しているところもある。4つの感染症とは風疹・水疱瘡・はしか・おたふく風邪であり、風疹が最も胎児に対する障害のリスクが高いことが知られているが、他の感染症も流産の可能性も含めて危険度はあると言われている。これらの感染症は定期接種の対象であるとともに、一度感染すれば免疫ができると言われているが、定期接種の制度が何年度も変わっていることや感染したと

思っているも本人や親の勘違いであることも聞いている。妊娠を望む人にとっては、免疫の確認は必要であり、妊娠を望む女性だけでなく、パートナーである夫、男性側も免疫を持っていくことが大切である。

妊娠を希望する夫婦に対して、八百津町としてこれら4つの感染症の免疫検査を行ってはどうか。免疫の無い人や低い人がいれば、妊娠をする前に予防接種を行うことで胎児に対するリスクを回避できると考えられる。また、若い方々に安心して妊娠、出産をし、八百津町で子育てをしてもらうためにも、是非検討していただきたい。そして予防接種についても補助を行っていくことを検討していただけないか。少子化対策として子育て支援を標榜する金子町政としては非取り組んでいただきたいと考えるが、執行部の考えを伺う。

答 (市岡健康福祉課長)

八百津町における風疹・水痘(水疱瘡)・麻疹(はしか)・流行性耳下腺炎(おたふく風邪)のワクチンの接種状況については、未接種者を概ね把握しております。

風疹についてご説明いたしますと、昭和59年度から平成元年度までは中学校2年生の女子を対象に、平成2年度から平成6年度までは幼児と中学2年生女子を対象に、平成7年度から平